

【参考資料】令和6年度「さが維新テラス」の活用状況



マルシェ販売の様子



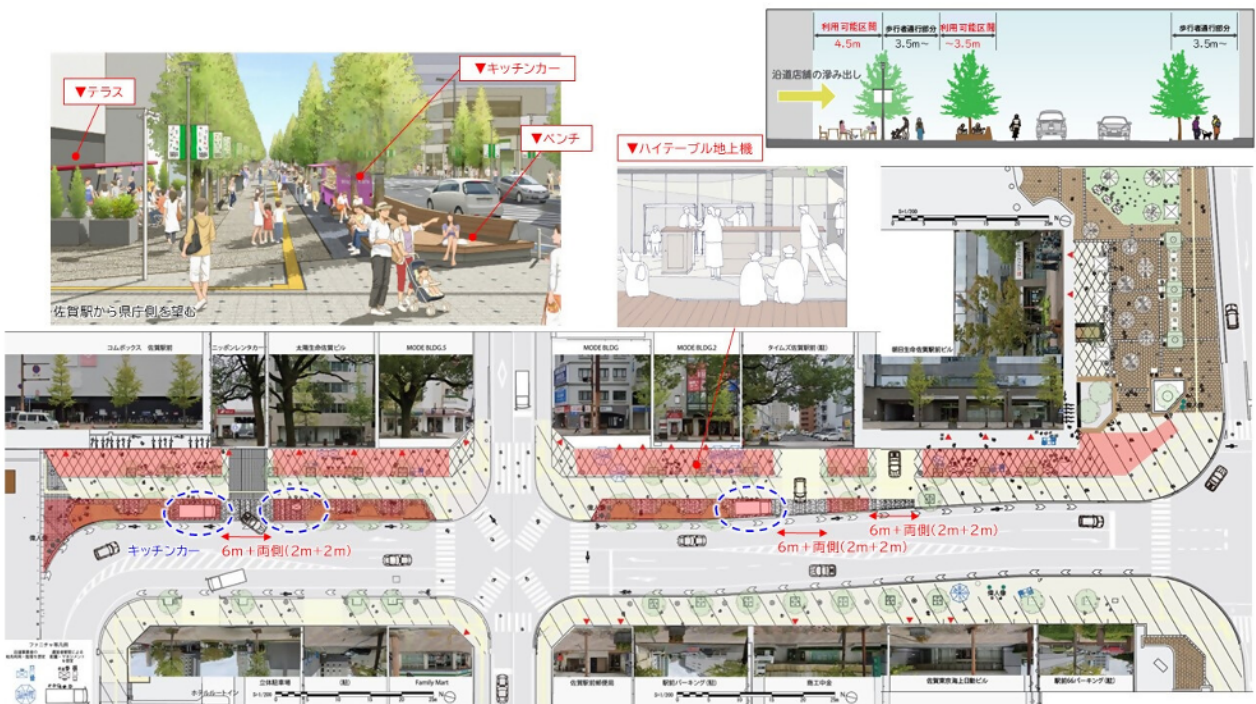
キッチンカー販売の様子



お絵描きイベントの様子



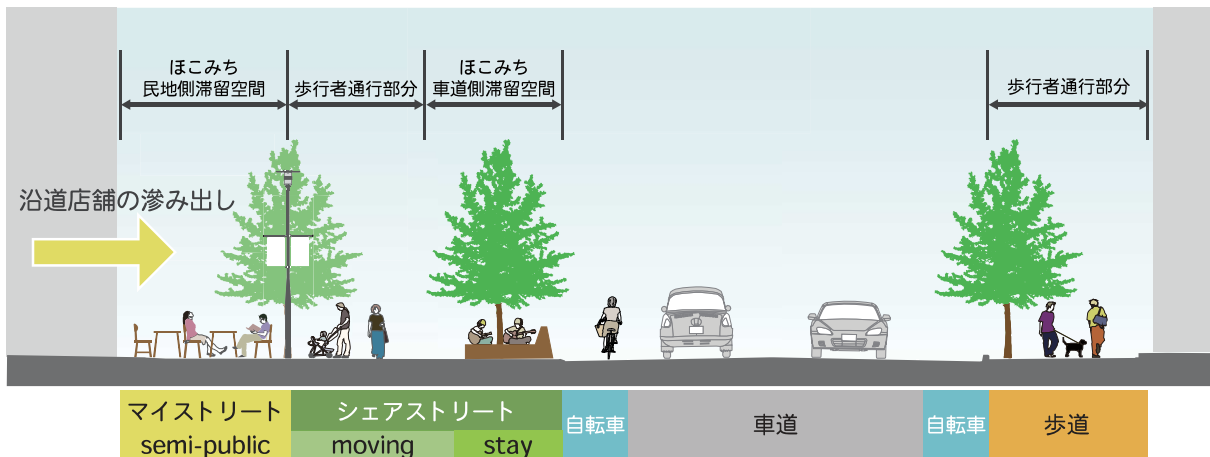
音楽イベントの様子



『さが維新テラス』の利用可能エリア(上記ピンク掛け)

# 【参考資料】 将来的な道路空間の活用イメージ

## ■ 佐賀駅南（佐賀駅下古賀線）の構成



### シェアストリート = moving (移動する) / stay (滞留する)

#### ① moving ⇒ 歩行者の安全かつ円滑な通行のための空間

高齢者、車いす使用者、杖歩行者、ベビーカーや幼児連れ等、すべての人が通行するため、安心して通行し、すれ違うことができるよう、皆が「ゆずり合い」「思いやり」をもってシェアする空間

#### ② stay ⇒ 歩行者の利便の増進や快適な生活環境の確保によって、賑わいやエリアの活力を創造するための空間

道路占用許可が柔軟に認められ、ベンチやカフェの出店等が可能。

民間の創意工夫を活用した空間づくりや利活用によって、休憩・滞留・交流場づくりなどによって、エリアの魅力を高めるためのシェア空間

### マイストリート = semi-public (flexible)

semi-public (flexible) ⇒ 歩道（道路空間）であるが、沿道の民有空間とゆるやかにつながりながらにぎわい・交流のための領域として活用可能な公共空間・楽しく歩ける魅力的な演出を促す空間

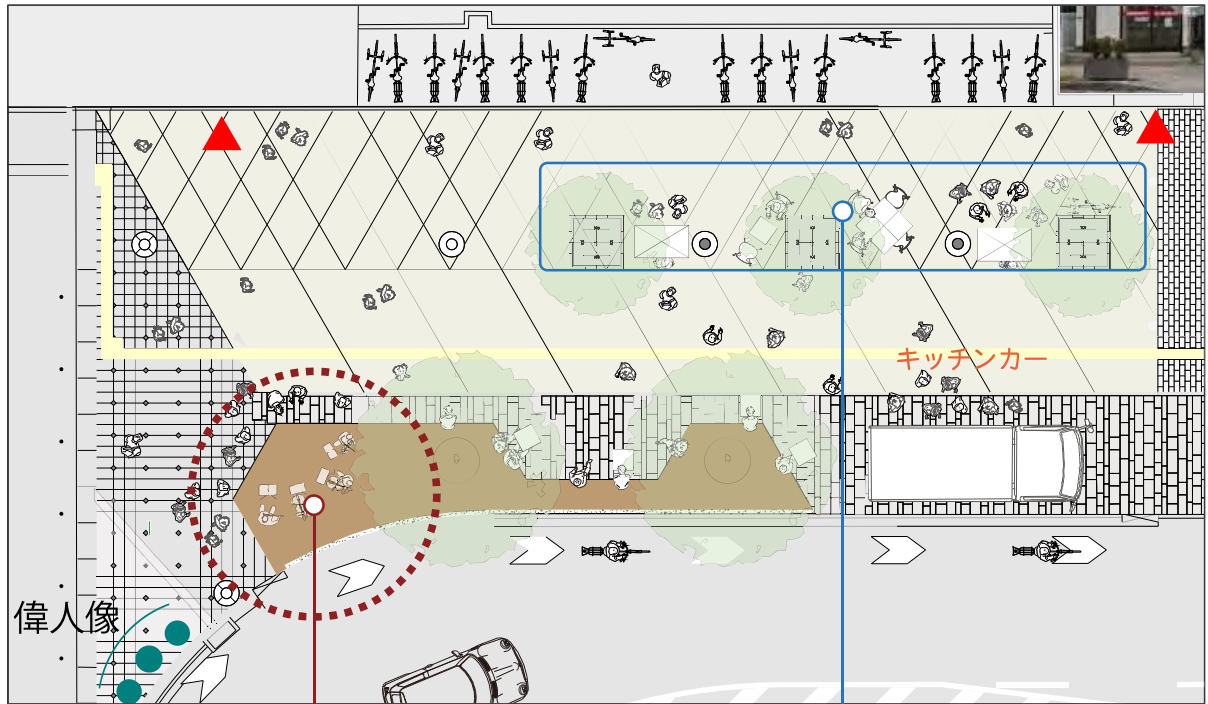
沿道建物のグランドレベルをガラス張りにしたり、軒先に沿道店舗からのテラスや客席等を設けるなどして前面の通りに開くことで、建物内で展開される営みや人の活動が通りににじみ出され、沿道との関係から生まれる自由度のある公共空間

※ ただし、道路の本来の機能である自動車や歩行者、自転車等の基本的な通行機能をはじめ、沿道施設への出入りのほか、防災、環境、収容空間等の空間機能を担っていることを忘れてはならない。



## ファニチャの配置・空間活用のイメージ

### ① コムボックス前（シェアストリート・マイストリート） | 駅前広場とつながる下古賀線の入口

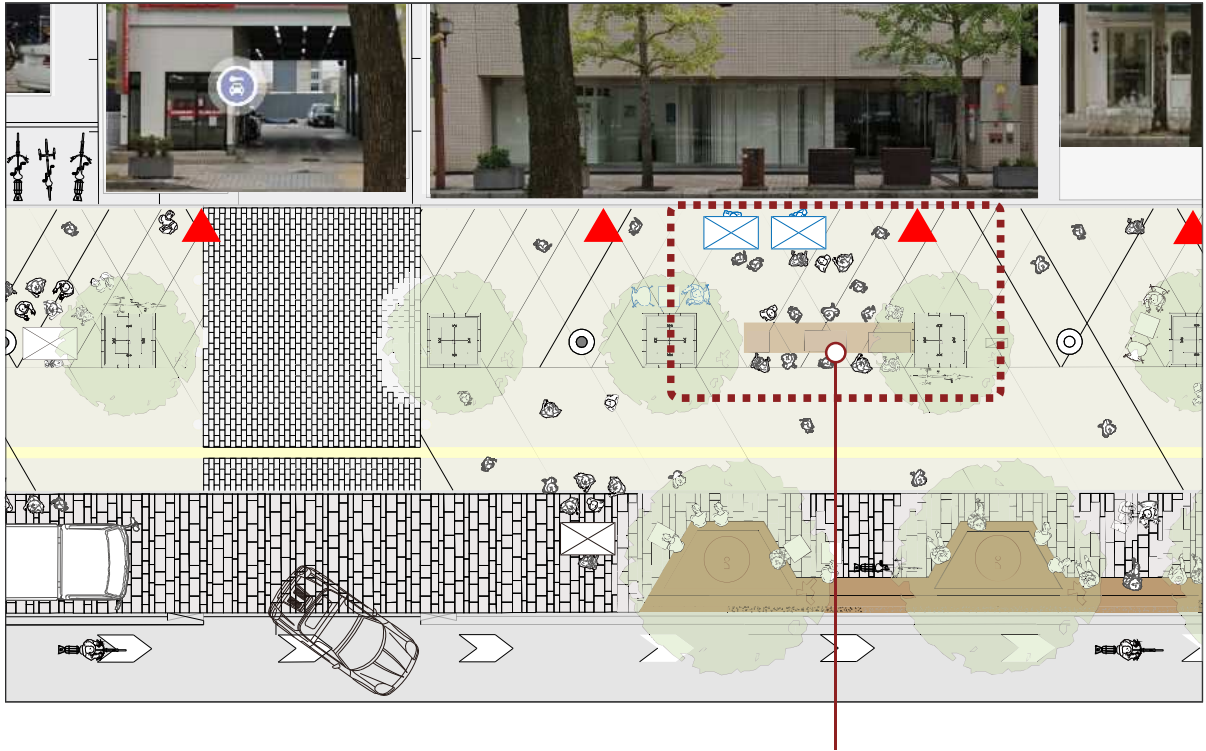


キッチンカーで購入したドリンクやフードを心地よい木陰で  
飲食できるテーブル&チェア（マイストリート）

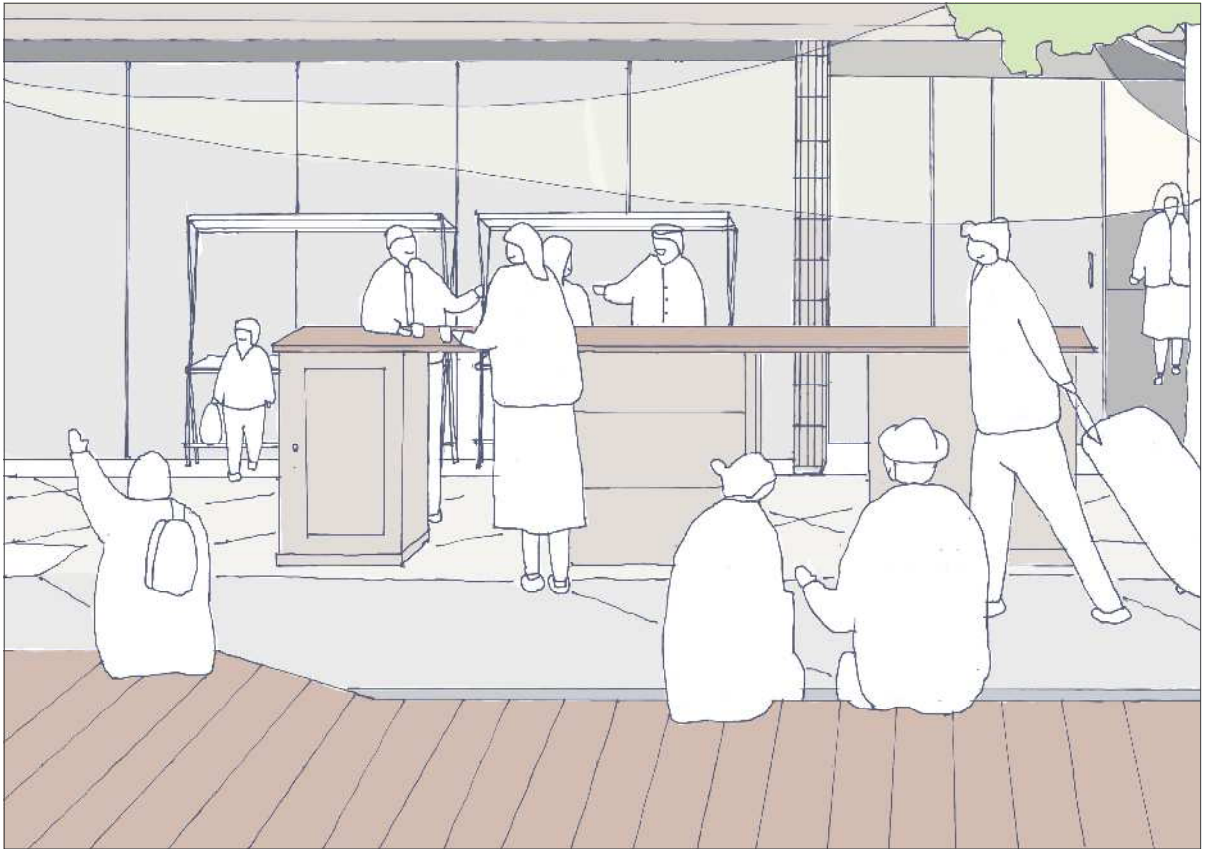
ベンチとしてだけでなく、  
時には舞台としてパフォーマンスでも使用できるステージベンチ  
（シェアストリート）



## ② 太陽生命佐賀ビル前 | マイストリート

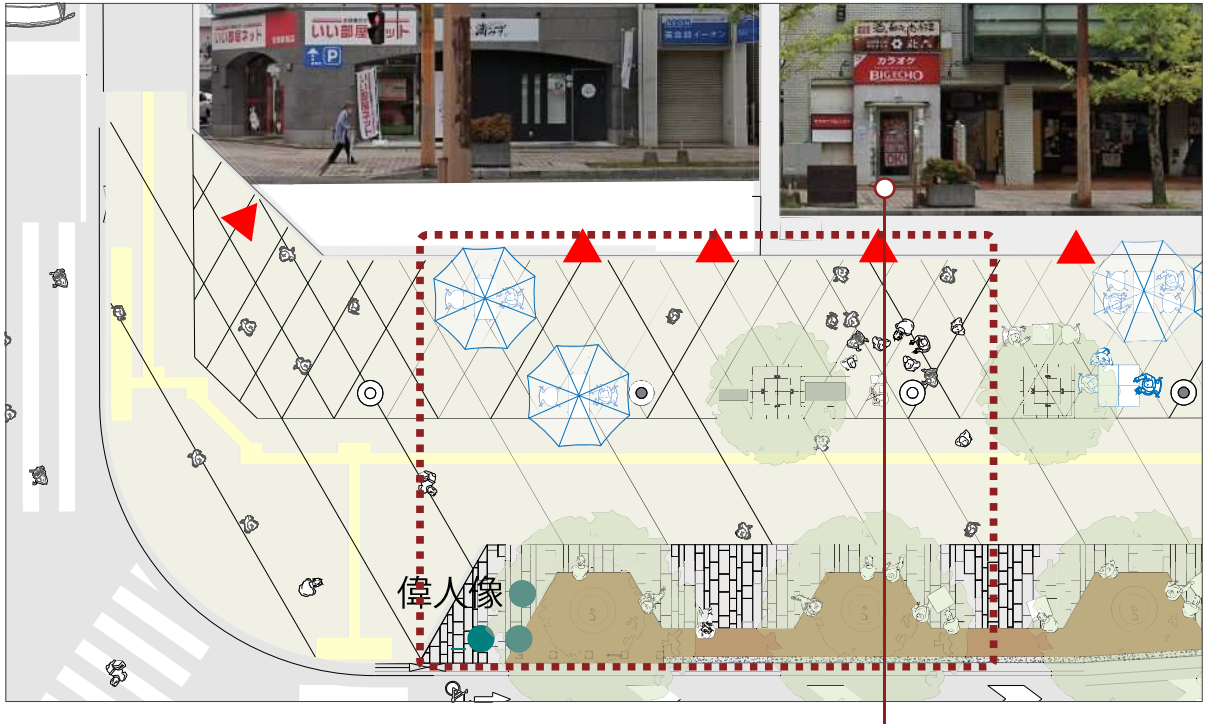


軒先での出店と連携してハイテーブルに設えられた地上機でのちょっとした立ち話や滞留・交流が生まれる。※沿道建物事業者の利活用を推奨





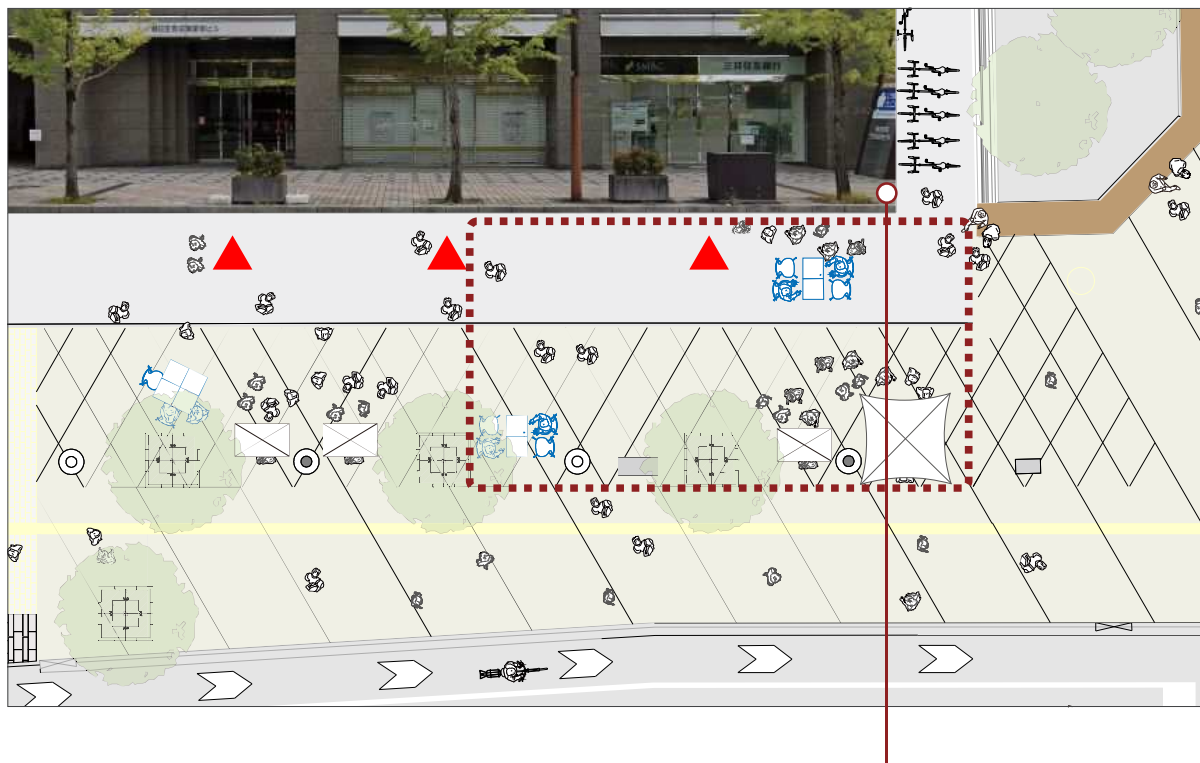
### ③ MODE BLDG・MODE BLDG.2 前 | マイストリート



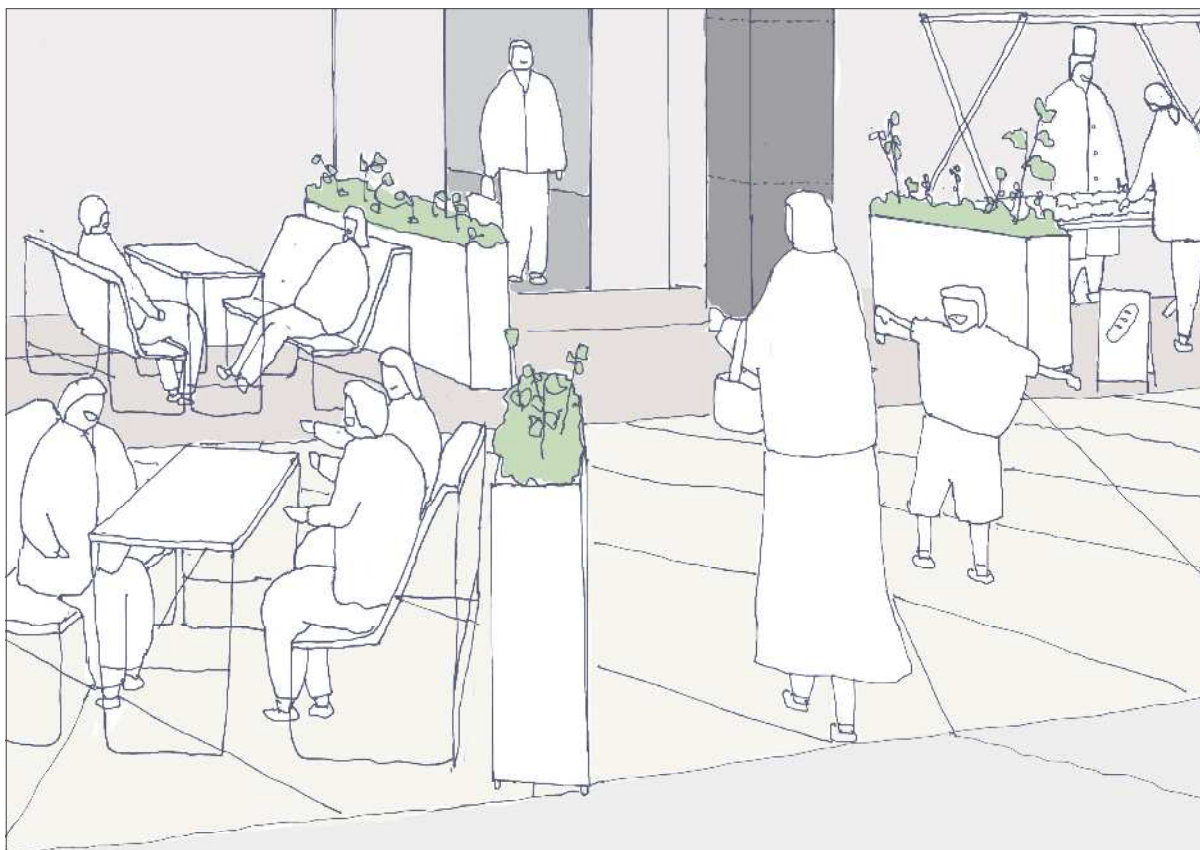
佐賀駅南（下古賀線）東側の通りのグランドレベルに飲食店が立地する唯一の空間  
シェアストリート（車道側）には、ベンチもあることかた、沿道店舗事業者によるオープンなテーブル席の設置やライブ・大道芸などのパフォーマンスの空間と利活用することで、にぎわい・交流・滞留が生まれる。



#### ④ 朝日生命佐賀駅前ビル前 | マイストリート・シェアストリート



エントランスを塞がないよう、可動式プランターで緩やかに空間を仕切る。  
街かど広場側にはヤタイでの出店、ビル1Fには学習塾が立地しているため、時間待ちの生徒さんの利用も想定。滞留スペースはシェアストリート寄りに配置することで、学習環境との共存を図る。





ACTION  
1

通りのコンセプトを大切にしよう！

# 佐賀駅下古賀線を 佐賀のひとと文化が集まる 佐賀の名所に

佐賀県が重点施策として取り組む、人々が歩くライフスタイルへ転換していくウォーカブルなまちづくりの起点となる佐賀駅南の通りを、「佐賀のひとと文化が集まる名所」に。

歩くことが楽しい道、歩きたくなる場所づくりのためには、道路空間の様々な活用方法を試行錯誤することで、この場所での活動・活用のされ方が進化していく通りにしていくことが目標である。

管理・運営する人・地域の人・活用する人、皆がシビックプライドを育みながら、行政だけに頼らない「丁寧な維持管理」「魅力的な運営」「丁寧な維持管理」を通じて、この場所に関わる多くの人々の手で、時間をかけながら、より愛される名所へと道を育てていく、「道を育てる」を佐賀の文化として定着させるための一歩を踏み出す通りにしていこうという気持ちをもって活用する。

## 道を育てる を佐賀の文化に

### 魅力的な運営

地域のみなさんとともにつかいながらよりよい使い方を探し続ける公共空間



### 丁寧な維持管理

シビックプライドを育み地域のみなさんの手でいつも大切にされている道へ



+

ACTION

2

通りの景観や統一されたイメージを大切にし、価値を高めよう！

## 商品の価値も 自分の価値も 高めよう

販売商品の価値やパフォーマンスのクオリティを高めるよう、最大限の努力とこだわりを持って活用する。

「歩くことが楽しい！」「また来たい！」と思ってもらえる工夫と努力をし、設える。

### ■ 出店に関するアクション

- ① 通りの景観やイメージを大切にするために、テントやヤタイ、パラソルは可能な限り統一デザインのものを運営者が用意し、貸し出すことが望ましい。
- ② テントやヤタイ前の接客対応スペースには椅子は設置しない。
- ③ テント内は整頓し、通りを歩く人やお客様から煩雑に見えないように心掛ける。
- ④ 設備（機器類など）は、全てテント・ブース内に納める。
- ⑤ ガーランドやテーブルクロスなどを使って設えの工夫をする。
- ⑥ メニューや価格を表示する吊り下げPOPは設置しない。
- ⑦ 店名看板は、ブラックボードや木製のA型看板を使用し、お店の宣伝や商品メニューなどわかりやすく表示する。



× 暖簾や懸垂（けんすい）幕、幟（のぼり）などの布製看板等は原則 NG

ただし、商品や店舗のロゴなど、特別にデザインされたものについては形や大きさがわかる写真とともに、事前に運営者に相談





### ■ キッチンカーについてのアクション

- ① 決められたスペースのみ出店可能
- ② サインやメニュー・価格表示は通りの景観とマッチするようデザインを工夫する。
- ③ 発電機は静音仕様のものを使う。



### ■ 展示やパフォーマンスについてのアクション

- ① 決められたスペースのみ展示・パフォーマンス可能
- ② 展示は通行の妨げにならないよう設営計画を立て、作品等が見やすく、すっきりとしたレイアウトにする。
- ③ パフォーマンス（演奏・歌唱・ダンス・大道芸など）を行う場合は、服やユニフォームが奇抜になりすぎないように、品格と節度をもって行う。
- ④ 沿道建物内の事業者には迷惑がかからないよう、音量に配慮する。



ACTION

3

おもてなしの心掛けと演出でファンを増やそう！

## こころがこもった おもてなしが 最高の広報になる

それぞれの工夫でおもてなしの表現を演出する。

子どもから高齢者まで、多様な人々が人が歩く通りにも目を配り、誰にでも区別なく笑顔で接することがおもてなしの基本。商売の対象としてではなく、ファンになってもらうために、自然体でフェアなコミュニケーションとセルフプロモーションを心掛ける。

### ■ おもてなしのアクション

- ① 目に見えない「思いやりの心」と「目に見えるマナー（礼儀）」をもって接する。
- ② 身だしなみや挨拶を欠かさない。
- ③ 通りを歩く人や、一緒に出店する人、パフォーマンスする人にもにも気配りを忘れない。
- ④ 美化につとめ、ゴミや汚れのない心地よい通りを一緒につくる。





ITEM

1

mobile furniture

## 「座る」| テーブル&チェア

ただイスを置くだけで、そこに居場所としての性質が生まれる。

公共空間における滞留や交流を促す上でなくてはならないものがイスに代表される「座る」道具の存在である。

イスにはその空間に佇む、留まるきっかけを与える役割があり、その形状はその空間での時間の過ごし方に影響を与えるといっても過言ではない。

佐賀駅南では、整備に伴い、車道側の「シェアストリート」にデッキベンチが設えられているが、天候や時間帯、季節や、日常/イベント時といった様々なシーンにおいて、自由に動かせるイスは、風景をつくる主役であり、色やカタチで風景をつくる主役である。

### ■ 選定のポイント

- ① 折りたたみ式で使用しない時にはコンパクトに収納できる。
- ② 片手で持ち運びが可能。
- ③ 屋外で使用でき、急な雨で濡れることを気にせずに使用できる。
- ④ 背もたれがあることでゆっくりくつろぐことができ、滞留時間の延長につながる。
- ⑤ 洗練されたデザインとカラフルな色によって空間をデザインできる。



スタイリッシュなカフェテーブル&チェアはアウトドアでの飲食や仕事など、様々なシーンで活躍する



アウトドアシーンでリラックスできるフォールディングソファは座面高 345mm

※ 座面高はくつろぐためのイスの座面高は 350mm前後とされている。

ITEM

2

mobile furniture

## 「陽射しや雨、社会とのイイ関係」 | パラソル

屋外で心地よく落ち着ける居場所をつくるためには、天候や見ず知らずの他人と自分の存在とを緩やかに間仕切る領域づくりが大切となる。

パラソルは、設置する空間や機会、活用の目的に合わせて、佐賀の夏の強い日差しや雨をしのいだり、自分の居場所をつくってくれるなど、空間の質を高め、居心地のよい環境を生み出すアイテムである。

### ■ 選定のポイント

- ① 丈夫で風や雨に耐えられる強度がある。
- ② 遮光性が高く、領域角度を容易に変えることができ、時間の経過に準じて確実に陽射しを遮ることができる。
- ③ 天幕をたたむことで片付けの必要がなく、出し入れの手間がかからない。





ITEM

3

mobile furniture

## 「潤いで空間を分節する」 | 可動式プランター

佐賀駅南エリアには、並木が整備される予定であるが、より身近に空間に潤いを与えてくれるのが緑（グリーンファニチャー）である。

使い方次第で効果が変わる「緑」を可動可能にすることで、空間のレイアウトを変化させたり、什器と合わせることで空間の分節や演出が可能になる。

### ■ 選定のポイント

- ① 丈夫で風や雨に耐えられる強度がある。
- ② 可動式で移動が可能。
- ③ 雨や水やりによる水たまりを防ぎ、虫の発生を防ぐことができる。
- ④ 高木、低木のどちらにも対応可能で、空間荷動きを与え、質を高めてくれる。
- ⑤ 鉢置きを基本とすることで重量を軽減するとともに、猫の糞尿被害を防ぐ。



ITEM

4

mobile furniture

## 「彩りと安定感をつくる」| ヤタイ・テント

「マイストリート」や「シェアストリート」で気軽に出店するために欠かせないヤタイやテントは、自立性と安定感があり、区画やブースをつくるしやすい利点がある。

統一感のあるテントやヤタイは通りの演出やにぎわいづくり、視覚による歩く楽しみづくりにひと役買ってくれるアイテムである。

### ■ 選定のポイント

- ① 容易に持ち運びができ、少人数での組立が可能。
- ② 丈夫で汚れが目立たない。
- ③ テントはテーブルなどのレイアウトに自由度がある。
- ④ ヤタイは構造がしっかりしていて一定の荷重に耐えられる。





ITEM

5

mobile furniture

## 「演出する」 | ガーランド・ストリングライト

空間に水平方向の領域をつくりながら、華やかさやわくわく感を醸し出してくれるガーランドや、夜の安心感ある風景づくりに欠かせないストリングスライトは、ヒューマンスケールで親しみやすさを演出するアイテムである。

### ■ 選定のポイント

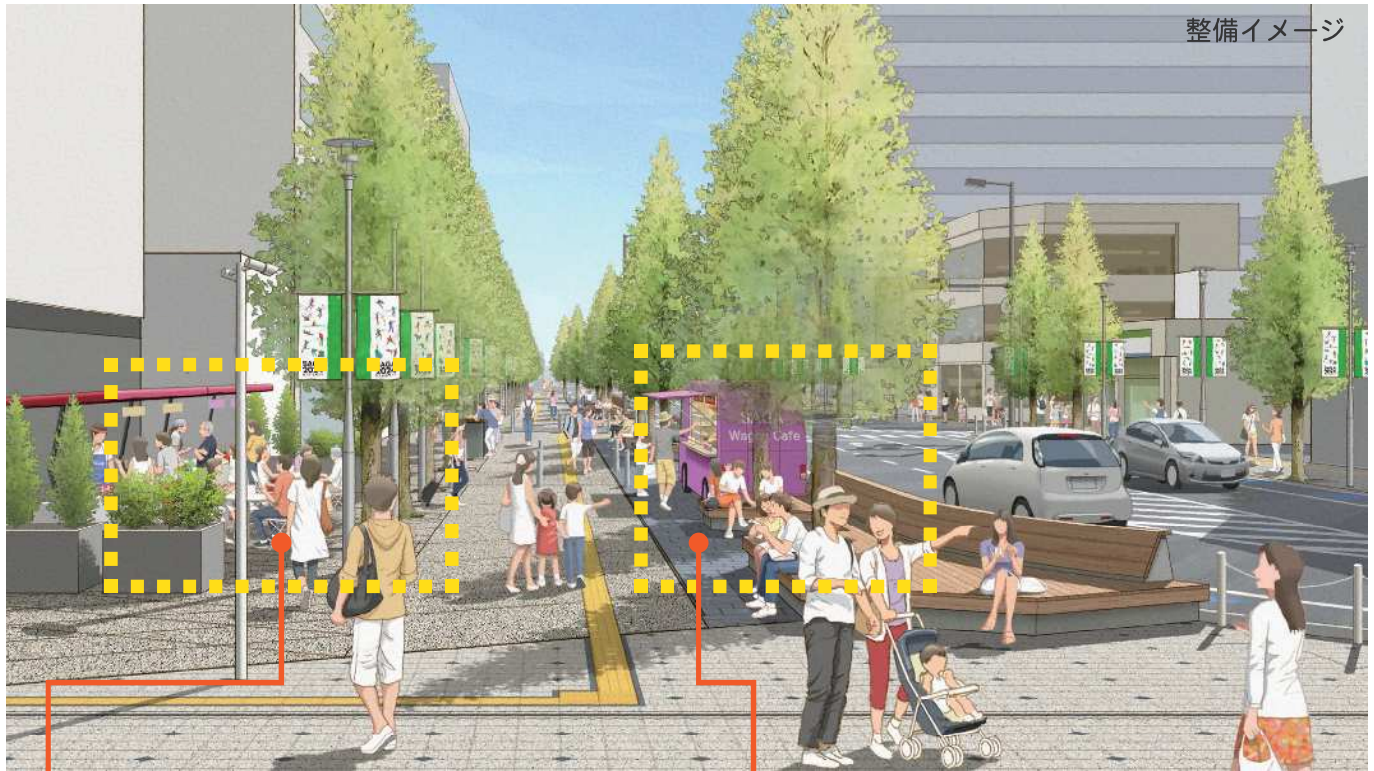
- ① ガーランドは単色でも多色でもよいが、紫外線による退色しない。
- ② ガーランドの大きさやピッチ（密度）は空間のボリュームによって調整。
- ③ ストリングスライトは、電球の大きさ、色や色温度を電球色に統一。





# ほこみち：佐賀駅南幅広歩道の活用について

ほこみち（歩行者利便増進道路）とは、まちと人の暮らしをより豊かにするために、道路を通行以外の目的で柔軟に活用できるようにする制度のことで、リニューアルされる佐賀駅南の幅広歩道では、並木の真ん中に幅3.5mの歩行者通行部分を取り、その両側に市民や民間事業者が許可を得て仮設店舗やテーブル・椅子などを設置できる場所を設けます。



整備イメージ

## ● ポイント1

沿道の建物と直接触れ合っている軒先の歩道空間（幅 4.5m）で、沿道店舗からのテラス席の張り出しや、屋台などの仮設店舗による活用を想定。

## ● ポイント2

街路樹や固定式ベンチを設置した車道側の滞留空間（幅 3.5m）で、ベンチに隣接してキッチンカーなどの移動販売車を停めることができる場所を準備。

## 【歩道内に設置することが出来るもの（例）】



沿道店舗軒先のテラス席



移動式の屋台や仮設店舗



キッチンカーなどの移動販売車

※ 上記の他に、テーブルや椅子、看板などの各種広告物、自転車駐車器具、展示会など催しのために設けられる施設などで、歩行者の利便の増進に資するものを設置することが出来ます。

※ 設置できる具体的な場所や、設置する際の料金・ルールの詳細については、今後検討していきます。



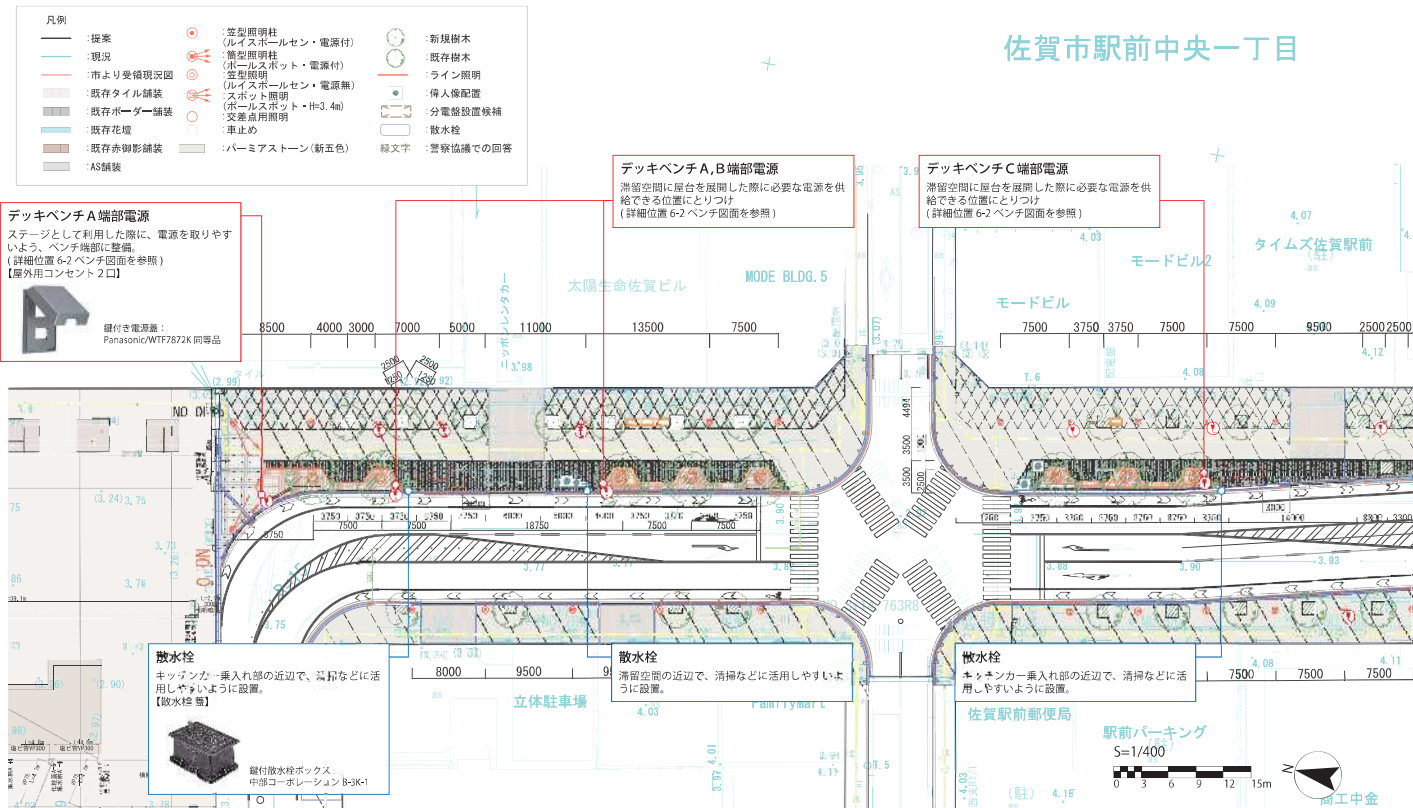
施設・設備配置図

※計画中の図面であり今後内容変更の可能性がある。

3) 電源・散水栓の配置計画

道路での屋台の運営やキッチンカーの展開や、イベント時に電気を取りやすいよう、照明柱とベンチ端部にコンセントを設けている。

また、ブランターへの水やりや清掃時に使用できるよう、散水栓を設ける。設置箇所は、接続するホースの長さが一般的な 20m程度とする例が多く、また車両乗入れ部をまたがないように配置するのが望ましいため、別紙のようにシェアストリート側に散水栓を配置する。



施設・設備配置図

※計画中の図面であり今後内容変更の可能性がある。

